

改憲とめるたたかい、ともに奮闘をたつみさん語る

4.12 第75回団体地域代表者会議

大阪憲法会議・共同センターは、第74回団体地域代表者会議を4月12日(水)18時30分からエルおおさかにて開催し、10団体5地域から25人が参加しました。9日投開票の統一地方選挙前半戦の結果を受け、藤木邦頭幹事長代理が「維新が府市、府会との過半数を握る状況となり、改憲をさらに推し進めることは間違いない。すでに衆議院の任期延長が論議されており、大政翼賛会へつながった過去の歴史を思い起こさせる」と危険な動きを指摘しました。また辰巳孝太郎さんが選挙戦を振り返り、「維新政治を終わらせる新たなたたかいへ確かな一歩を築いた」と力強く語り、参加者から拍手が送られました。

三宅事務局長が報告と行動提起を行い、4名が取組みを報告しました(次頁)。



辰巳孝太郎さん

当面の行動

1) 「安保関連3文書」閣議決定による「戦争する国」づくり、大軍拡・大増税、改憲発議を許さないたたかいをすすめる

※大阪関係の参院憲法審査会への抗議要請ファックス(別紙要請は資料参照)

2) 「平和、いのち、くらしを壊す戦争準備の大軍拡・大増税ノー」の運動展開をする

※現在12054筆を集約、第2次集約5月3日に向け、今後も毎週金曜日に報告結果を求める。

※最終集約は5月10日(12日共同センター必着)

各団体・地域で集約した署名は5月10日を目途に中央へ集中する(5月17日中央の院内集会で提出)

3) 「憲法は希望」を強く打ち出し、他団体とともに「軍拡・改憲よりくらし」の幅広いたたかいをすすめる、憲法をいかに国民の命とくらしを守ることを求める。

4) 大阪総がかり行動(2023.5.3憲法集会)を成功させる(詳細は次頁)

5) 憲法学習活動をすすめる(2023.5.27「春の憲法大学習会」テーマ「NO!軍拡 YES!憲法」)

「統一地方選前半戦の結果について」 辰巳 孝太郎さん

府知事選を終え、くやしい思いはあるが、「自分たちの要求をかかげてたたかう候補者が出てくれた、出てくれて有難う」という思いや手紙をたくさんいただき、気持ちよく選挙戦をたたかえた。維新政治の何がどう問題なのか、「維新政治を可視化する」ことを念頭におき、教育の問題では私学はマンモス化により学校でなくなる、公立は廃校により学校がなくなる、といった事態をネットカフェやSNSでも多くの府民に訴えてきた。

カジノについては吉村さんは、依存症対策や土壌問題の争点化を避け、中身のある論戦にならなかった。選挙戦が終わるとすぐ国の認可がおりたが、認可されても契約はまだこれから。契約するな、そして契約されても賃料の団交や不当な値下げなど山積する問題についての裁判闘争によって認可取り消しを現実にする可能性もある。カジノの運動は続く、むしろこれから始まるといってもいい。

SNSの活用やyoutube配信を通じて、東京、山梨、群馬などいろんな所で新たな出会いも広がった。選挙戦ではこうしたツールの活用は必須であり、反響や要請も寄せられた。今後も憲法を変える動きをとめるたたかい、地道な取り組みを積み重ねておきなうねりにしていきたい。いっしょに奮闘していきましょう。

団体地域取組み報告

・大阪安保

安保3文書の具体化ともいえる2月20日、米艦の大阪港入港に抗議行動を行った。入港はわずか一週間前に知らされるという日本の主権を軽視したものであり、それを許している岸田政権は厳しく批判されなければならない。米軍との大規模な合同軍事訓練をはじめ、武器・兵器の展示フェスタを日本で行っている最中になぐりこみ部隊の海兵隊、戦争最前線の戦闘機搭載の艦船をわざわざ入港させていることは問題であり、今後の寄港の調査目的も兼ねている。外務省、大阪市ともに「核兵器は積んでいないと判断している」というが、非核宣言した神戸市のように証明がなければ入港させないと自治体がきっぱりと主張するよう、維新府政を糾していくことが重要だ。

・新婦人

選挙戦は自らの民主主義を貫く活動であるが、そのなかでも署名活動の継続をはかり、憲法署名は3万1710筆、平和・核廃絶署名は4万1685筆に至っている。署名活動のなかで、しゃべり合って行動していくという流れを作っていくことを大切にしてきた。選挙中のホットカフェは500回をかぞえ、要求が政治を変えていく流れを作ってきた。

新たなツールとしてのSNSもこれからどうしても必要な課題である。平和を発信する政治の実現のために。ウソとペテンの維新政治を終わらせるためにこれからも引き続き頑張ります。

・府高教

選挙戦のなか、たくさんの対話をしてきた。たつみさんが教育の問題をクローズアップしていたのは、反響が大きかった。高校の定員割れが問題なのではなく、定員割れが高校潰しに直結しているのが問題であり、大阪の異常さを示している。政治に対する不信感が根強くあるなか、中央では自公、地方では維新の言うことをそのまま信じて多くの人が投票しているのではないかと。政治改革、身を切る改革といわれるが、いま現実に社会がどうなっているのか。本当に平和であるためにはいまの政治の何が問題なのか、どうすべきなのか、府高教もそれを示し、共感をひろげる運動の先頭に立ってたたかっていきます。

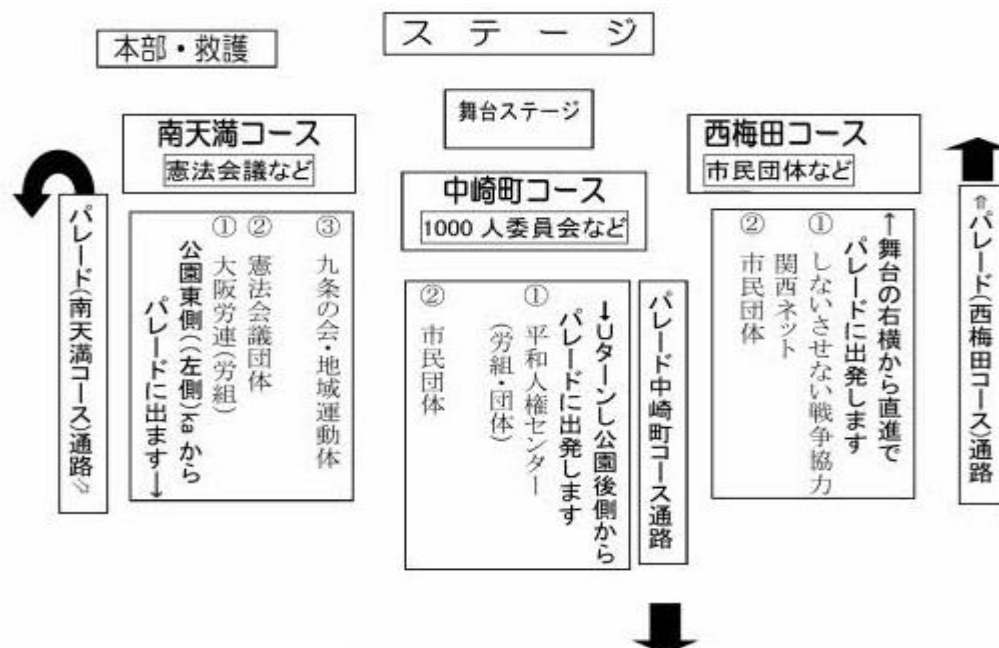
・堺

今度の選挙結果を受けて、堺は「市長選勝利むけ足場をつくった」とみんな元気。

堺では今回の選挙で維新フィーバーは起こらなかった。定数48に対し、維新派23人立候補して4人落選。19人とどまり過半数には及ばない状況に追い込んだのです。自民も議席を減らすなか、立憲・共産・市民派は11議席をキープ。

たつみさんが「可視化」と言われたが、市政をチェックし通信を発行してきたなかで、この4年間の維新の悪政を具体的に訴えてきた。身を切るといいつつ、「身を切られたのは私たち」ということ。市民と野党の運動も選挙のときだけでなく日頃からの協力のなかで信頼が築かれてきた。市長選も勝ると確信を持ち、堺から維新政治をはね返していきたい。

5.3 おおさか総がかり憲法集会 配置図 23,5,3,14:00 開会 扇町公園



今年の5・3おおさか総がかり憲法集会は、扇町公園で行われます。久々の大規模集会として開催します。(集会規模六千人以上)府内一円から多数の皆さんのご参加、よろしくお願ひします。
*レジャーシートもお持ちください。